

論争

「自然エネルギー」開発は未来を開くか!?

大今歩

(おおいま あゆみ・56歳、予備校講師)

福島第一原発の事故は放射能を撒き散らし、今も全く収束の兆しが見えない。「脱原発」の世論が高まる中、菅直人首相は佐賀県の玄海原発運転再開にストップをかけ、全原発のストレステスト実施を指示した。さらに「脱原発」を宣言した。このような動きは大いに評価できるが、国会で審議が始まった再生エネルギー法案など、自然エネルギーへの転換という方向には疑問がある。たしかに風力や太陽光発電では原発のような破滅的な事故は起こらない。しかし、原発と風力・太陽光発電には共通の問題点があり、未来を開くとは考えられないからである。

今ある原発をすべて停止しても夏や冬のピーク時でも若干の節電を心がければ、原発以外の発電で電力需要はまかなえる点を押さえない。

その上でまず、風力・太陽光発電は原発と同様、電力需要の多い都市のために農山漁村に自然破壊など大きな犠牲を強いる。風力発電を建てるために山が切り崩され、工事用道路建設のためふもとの山林がつぶされる。ソフトバンクの孫正義社長は「休耕田や耕作放棄地を使ってメガ太陽光発電を行なう」と述べているが、食料自給率が四〇%を下回る日本において今後田畑になり得る土地をつぶしてしまふ。発電密度の低い太陽光は非常に広大な面積を必要とし、その分緑の大地が失なわれる。

第二に、風力・太陽光発電は原発と同様必要なときに安定的な電力を得ることができない。原発は運転停止ができないため、電力需要が少ない夜間は火力発電を停止したり、揚水発電所を稼働して出力を調整している。一方、風力・太陽光発電は風が吹かなかつたり、または夜や雨、曇りの日には発電量はゼロに近づく。脱原発に踏み切ったドイツでも不安定な自然エネルギー発電を補うために火力発電の増設を予定している。

第三に、原発と風力・太陽光発電はコスト面で火力発電に遠く及ばない。原発は火力に比べてコストが安いと標榜してきたが、福島第一原発の事故を見てわかるように被害の賠償額は計り知れない。コスト面で火力に劣ることは明らかである。同様に風力や太陽光発電もコスト面で火力に比して二〜四倍、割高である。コスト高は再生エネルギー法により電力会社に強制的に買い取らせ、それを補助金や電力料金値上げで穴埋めするしかない。そして、太陽光発電を例に取れば、パネル生産に投じる大量の電力や一五〜二〇年の耐用年数、廃棄処理のためにかかるエネルギーを考えると、石油などを直接燃やして発電した方がずっとエネルギー消費を減らせることを意味する。

風力・太陽光発電は、原発同様、百害あって一利もない。脱原発は自然エネルギーへの転換ではなく、今の生活を根底から見直して電力消費を減らすことで実現すべきである。